

昭和こじょう会便り

50号

2007年 12月号



半田市 國盛「酒の文化館」

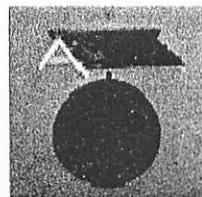
発行：名古屋市高年大学鯉城会・昭和鯉城会

・・・ 目 次 ・・・

表紙	(写真) 國盛「酒の文化館」	ページ	10	ボランティア
ページ	2	「杉玉」のこと	11	「 ・活動レポート
「	3	50号発行にあたって	12	クラブ便り・頭の体操
「	4	活動報告	13	「
「	5	活動レポート	14	作品展出展目録1
「	6	「 ・お知らせ1	15	作品展出展目録2
「	7	「	16	学区便り・お知らせ2
「	8	自由寄稿	17	短歌・俳句
「	9	「	18	掲示板・編集後記



..... 「杉玉」のこと



表紙写真「酒の文化館」の入口の上に、小屋根を設けてその下に吊るしてあるボールは蜂の巣ではありません。これは「杉玉(すぎたま)」といって、造り酒屋の軒先には必ずあるもので、杉の葉(穂先)を集めてボール状にした造形物です。この「杉玉」はまた「酒琳(さかばやし)」ともいい、新酒が出来たことを知らせる役割を果たすもので、「搾りを始めました」ということを示すものです。

吊るされたばかりの「杉玉」は蒼々としていますが、やがて枯れて茶色がかって来ます。この色の変化がまた人々に、新酒の熟成の具合を語りかけています。

今日では、酒屋の看板のように受け取られがちですが、本来は酒の神様に感謝を捧げるものであったとされています。

50号発行にあたって

昭和鯉城会会長 19期 (地域) 渡辺 信良

歳末ご多忙の折から、会員の皆様はつつがなくお過ごしのことと存じます。今年は明るいニュースとして中日ドラゴンズが日本一となり、当地区は大変盛り上がりました。昭和鯉城会も9月以降いろいろな行事を行って参りましたが、特に昭和区区民まつり、趣味の作品展は大盛況のうちに無事閉幕することが出来ました。これも一重に皆様のご協力の賜物で、紙面を借りまして厚く御礼申し上げます。

ついでには9月～11月の主な行事をご報告申し上げます。

9月19日 半田市・國盛「酒の文化館」見学と散策

20名の参加があり、江戸時代の酒造りの道具・資料の展示・文化等を、利き酒をしながら見学して一日楽しく過ごしました。

10月21日 昭和区区民まつり

当日は絶好の天気恵まれ、3万人の来場者がありました。昭和鯉城会のコーナーでは子供さんによる土鈴絵付、御寄贈の陶器のチャリティ販売は大変な活況で、販売額も昨年を大幅に上回りました。あらためて皆様のご厚意に感謝申し上げます。

売上げ金は、12月に福祉協議会と福祉施設ライトハウスに寄付させていただきます。

10月30日～11月1日 趣味の作品展(昭和区役所6階)

今年度は会場を区役所に移して開催しました。出展数68点(53点)、来場者230名(180名)がありました。他区からも多数の来場があり、昨年以上の賑わいで、皆様力作に大変感心されておられましたことをご報告申し上げます。来年度も当場所にて開催の予定です。さらに一層のご協力を賜りますようお願い申し上げます。

()内は昨年度実績

その他毎月のクリーンパートナー・ゆめ緑道(花壇の世話)・なごやかハウス福原(植木の剪定)は継続実施しています。なお来年4月上旬に総会を開催の予定です。決まり次第ご連絡いたしますので御出席賜りますようお願い申し上げます。

来年度も役員全員昭和鯉城会発展のため努力してまいりますので、今後とも宜しくご支援下さいますようお願い申し上げます。

年内も残り少なくなってきました。皆様にはよき新春を迎えられんことをお祈り申し上げます。

活動報告

平成 19 年 10 月～12 月の主な活動と予定

*会議

- 10 月 1 日 (月) 幹事会(酒井幹事)
- 10 月 10 日 (水) 役員会
- 10 月 15 日 (月) 代議員会(渡辺会長・余語委員)
- 11 月 14 日 (水) 役員会
- 11 月 19 日 (月) 幹事会(酒井幹事)
- 11 月 19 日 (月) 区民のつどい会議(渡辺会長)
- 12 月 12 日 (水) 社会福祉協議会(渡辺会長)
- 12 月 18 日 (火) 区民のつどい会議

*行事

- 9 月 19 日 (水) 半田市・國盛「酒の文化館」見学
- 9 月 26 日 (水) クリーンパートナー(清掃)
- 10 月 21 日 (日) 昭和区区民まつり(鶴舞公園)
- 10 月 24 日 (水) クリーンパートナー(清掃)
- 10 月 30 日 (火)～11 月 1 日(木) 趣味の作品展(昭和区役所 6 階)
- 11 月 5 日 (月) 八事学区清掃ボランティア(南山学園付近)
- 11 月 5 日 (月) アミーユ吹上(土鈴絵付けボランティア)
- 11 月 7 日 (水) クリーンキャンペーン(栄付近清掃)
- 11 月 20 日 (火) 昭和区散策
- 12 月 6 日 (木) 公開講演会(鯉城学園)
- 12 月 9 日 (日) 徳川園見学
- 12 月 12 日 (水) クリーンパートナー(清掃)
- 1 月 16 日 (水) 上野天満宮新春初詣
- 2 月 12 日 (火) 大須演芸場
- 3 月 14 日 (金) 瀬戸やきものの里散策

その他

- 12 月 17 日 (月) 「昭和こじょう会便り」 製本・配布・タオル集め

昭和区区民まつりに参加して

20期（生活）大館 貞壽

10月21日（日）、昭和区の鶴舞公園にて「区民まつり」が開催されました。天候にも恵まれ秋の爽やかな一日で、名古屋市の音楽隊を先頭に行進が始まり、「まつり」の開始です。

会場に目を転ずると様々なゾーンが設置され、ゲーム、体験コーナー、環境デーなごやコーナー、模擬店、その他各種コーナーと盛り沢山である。出店者も昭和区の官公庁、企業、市民団体、子ども会関係など様々でありました。

秋晴れの天候に誘われ朝早くから沢山の人が会場は賑わっていました。我が「昭和鯉城会」は体験コーナーの一角に出店し、出し物は毎度おなじみの陶器販売と土鈴の絵付けである。陶器は会員やその友人の力作を寄贈して頂いたものです。大変有難く感謝しています。売れ筋は大皿、花器等大物が人気で、お客は女性が主でした。男性は知ったか振りして講釈だけをして買わない人がいました。日本酒離れの為かお猪口は不人気でした。それでも売れ行きは好調で8割方売れました。今後とも会員及び友人の方の大作を期待しています。

土鈴の絵付けでは、親子が「来るわ、来るわ」で満員盛況、てんてこ舞いでした。誰も来なかったら困るなど思っていたのが杞憂でした。子供さんもお母さんも楽しんで絵を描いていました。坊やに何色が欲しいかと聞くと「肌色」と言われて絶句。先輩に助けを求め危機脱出。遠い小学生の絵の時間を思い出しました。余りの盛況で、80個用意した土鈴は



陶器の販売

すべて売り切れ、乾燥用スプレーも買いに走る有様でした。「まつり」終了の1時間も前でしたので少々残念でした。

いろいろありましたが、「まつり」は全体として大変盛り上がり終りました。最後にご協力頂きました皆様に厚くお礼申し上げます。大変有難うございました。



土鈴の絵付け

陶器を寄贈して頂いた方々



19年度の福祉まつり、区民まつりには下記の方々から陶器約180個をご寄贈頂きました。ここに厚くお礼申し上げます。
昭和鯨城会

正木 勇 様	伊藤 トメ 様	伊藤 繁子 様	大岩 忠明 様
小川 幾年 様	高畑 良子 様	大沢 花子 様	林 喜久代 様
桜井 建郎 様	山川 幹夫 様	近藤 幸雄 様	宮田 和子 様
伊藤 紀子 様	広江 昭二 様		(順不同)

お知らせ 1

平成20年1月～3月 行事予定

■ 1月 新春初詣・上野天満宮と揚貴荘見学

* 1月16日(水) 午前9時30分 地下鉄名城線
「茶屋ヶ坂駅」改札口集合
学問の神様、菅原道真公を祀る上野天満宮に参拝、
松坂屋五代目伊藤次郎左衛門祐民氏の別荘・揚貴
荘の建物見学と庭園の散策。



■ 2月 大須演芸場

* 2月12日(火) 午前11時30分 大須演芸場前
集合 団体割引入場料 800円
庶民の街大須で半日、大衆演芸を楽しみましょう。
笑いは健康に一番!



■ 3月 瀬戸やきものの里 散策

* 3月14日(金) 午前9時20分 名鉄瀬戸線「尾張瀬戸駅」前集合
やきものの産地瀬戸を訪ねる。狭い路地、坂道、歴史を刻む窯など
懐かしく心癒される風景が続く。



いずれも詳
しくは別途
案内参照



國盛「酒の文化館」見学と周辺散策

20 期 (陶芸) 富田 紘八郎

私たち 20 名の昭和鯉城会員は、名鉄新名古屋駅 9:25 発の電車で半田市内散策に出かけた。当日は列車事故のためダイヤが 10 分程遅れていたが、お約束の 11 時に中埜酒造・國盛「酒の文化館」へ到着することが出来た。

半田駅前、都市計画による区画整理事業により昔の面影も無く、モダンな広場や商店街・町並み改良の最終工事が盛んに行われていた。

途中の「武豊線・半田駅」には、日本で一番古い鉄道跨線橋・油庫等があり、これらの施設を見ながら「酒の文化館」に到着する。武豊線の成り立ちは古く、武豊港へ鉄道建設に必要な資材を運び、この鉄道を利用して資材を運搬して東海道線の建設が行われた。また東海道線開通後も、国の防衛に不可欠な爆薬等の運搬のため、この路線は整備され、その重要度は増していった。

國盛「酒の文化館」付近は博物館「酔の里」、中埜半六邸、小栗邸等黒塀に囲まれた商家群、さらに江戸への回船問屋、醸造業に用いられた蔵・倉庫等が多数群立している。

大正時代までは、この辺りの黒塀は表面を軽く焼いた板が用いられていたが、現在では全ての壁板が、石油系コーラールで塗られているのが少し寂しい気がする。景観的には、非常にまとまった美しい運河と、商家・倉庫群が調和した景観となっている。

博物館「酔の里」の前で半田市観光協会のボランティアガイド 2 名の方と合流、解説を受けながら紺屋海道に向かった。

紺屋海道は、千石船が出入りしていた大野港と半田を結ぶメイン街道であり、多数の人や荷物が行き交う賑やかな町並みであった。半田で醸造された酒、酔などが樽などに詰められてこのルートを通り大野港に運ばれていた。

昔の面影に浸りながら、この海道付近の寺の境内にある「イブキの天然記念樹」、米屋さんが焼いている“せんべいの香り”を楽しみ、常夜灯のある二つの秋葉講遺構を見ながら「半田赤レンガの建物」に到着した。

この建物は、明治 31 年、丸三麦酒株式会社の工場として建てられ、「カブトビール」を醸造して全国に出荷した。この赤レンガの建物は「国の登録有形文化財」として登録されている。この建物にも太平洋戦争の爪跡が残されており、昭和 20 年 7 月 15 日のノースアメリカン P51 による機銃掃射の傷跡が建物北面に残っている。

この建物は年間 3 回程度の一般公開があり、9 月 19 日は非公開期間であったが、赤レンガ建物保存会会長さんの計らいで特別に内部を見学させて頂いた。

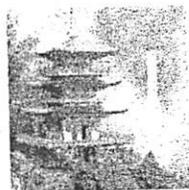


「酒の文化館」で説明を聞く

最後に全員で住吉神社に参拝し、半田市観光協会のボランティアガイドさんに感謝しながら名鉄住吉駅経由で無事帰宅した。

(註)紺屋海道:一般的には街道であるが、敢えて「海」を用いている。

「那智の火祭り」紀行



15期 (地域) 加藤 初雄

文才の無い者が、前号の「熊野古道」に続いてペンを執ることにいたしました。那智の火祭りは全国でも有名で、一度は目で見たい祭りのひとつでありました。

7月14日は、台風4号が九州・四国南端をかすめ、紀伊半島に再上陸する日の当日。前日から泊っていた私は、朝、こんな悪天候でも祭りはあるのかとホテルに尋ねると、「この祭りは昔から槍が降っても行われます」と言うので、身支度をして那智の滝へ急行。猛烈な雨の中を、参道を降りて滝に参拝。もう参拝者(見物人)は続々と集まり場所選びをしているので、何回も来ている人に教えてもらい、よい場所と思われる所に立ったのが午前10時。祭り本番まで豪雨の中で4時間待ち。腰をおろすこともできず終始立ちどおし。大変な難行となる。

前置きが長くなりましたが、この祭りのあらましを申しますと、御神輿というものは無く、扇神輿という高さ5メートル余もある大框に真っ赤な緞子を張り、32本の日の丸扇と八面の鏡をつけたものが12体。一体を数人で抱え持ち、那智大社を出発、整然と滝まで1キロ近く降りて来る。一方滝口では白装束をした大松明12本の担ぎ手が、午後1時45分ぐらいから飛瀧神社前で松明に点火、大社前から降りて来た扇神輿を参道で待ち受け、焦がさんばかりにお清めをする。突進(?)体当りして合戦するんだと書いたものもあるが、そこは神事。飛び散る火の粉、炎に照らし出される参道の老杉。この瞬間を固唾を嚥んで見守る参拝者であり見物人でもある人々の顔も紅潮している。

老大木の薄暗い参道で30分程の神事、これはこの場所でなければ体験することは出来ない。ごうごうと音を立てて落下する祭神である大滝が見下ろす光景は神秘的なものである。何度でも見たいという人の気持が分った。

なお大松明は特製で、直径50センチの桶型に細長い檜板がビッシリ詰めてあり、重さ40キロもあるというから、担ぎ手も若衆で力持ちでないとは勤まらない。大変だと思う。神事の最後は松明が神社境内に入り、12本の扇神輿は鳥居の奥の所定の場所に並び、神官が祭神の大滝に向って祭りが無事終ったことの祝詞をあげて終りとなる。

那智の火祭り



私事ですが、前述のとおり悪天候のもと、何時間も雨に打たれ、ずぶ濡れとなりましたが風邪もひかず、念願も叶えられて最良の日でありました。周りには北海道・九州の人達も居られ、この祭りが全国版なることを知り、来年もぜひ行きたいところなのです。



昭和鯨城作品展に出展して

16期（文化）荒川 巖

今年は、油絵 15 号「合掌造りの家」で、高山・飛騨の里で池の前に 2 軒並んだ合掌造りを画面一杯に写生しました。画面一杯に描くことは構図が無いので楽な方法です。季節は 6 月、緑が若々しく、若葉の匂いも一杯でした。ここは画題に恵まれ写真家も一杯です。この冬景色は最高です。

絵は「写実が半分、感動の心が半分」で絵となるのです。自分が感動した所を探して歩くのも重要です。油絵は、輪郭は必要ではなく、茶色一色の濃淡で絵を描き、色を付けていけば良いので水彩に比べ楽です。心で描くので 60 歳を過ぎてから始めても充分です。小学生の時から絵は好きで、昔は毎週新聞に掲載されたものです。油絵を始めたのは終戦後「かこう会」を立ち上げて写生旅行を楽しみました。この会は若者の集まりで、今も続いております。昭和 25 年頃、光風会の鬼頭鍋三郎先生が、県知事の息子に絵を教えることになり、彩画堂が材料を買いに来る常連に呼びかけ、10 人で教室を開くことになりました。光風会は私の大好きな会であり、当時すでに「バレリーナ」で有名な鬼頭先生の個人教室へ仲間入り出来たことは幸運でした。教室が終るとお菓子を食べながら先生と話をすることが楽しかった。又構図が悪いものは「いつまで描いていても、ものにならない」と全部消されたりして、厳しい指導もありました。ここで一番驚いたことは、最初から裸婦のデッサンから始まり、私は女性の裸を見たのは初めてでした。デッサンは先生いわく、「美校では卒業するまでには、0.2～0.3 耗の画用紙が自分の背の高さになるまで画く」ということでした。

27 年頃になると名古屋の文化クラブは最高潮になり、先生が教室を開き、展示会は全市一本で行われ、この教え子が金賞・銀賞・銅賞を受賞しました。油絵は鬼頭先生、日本画は阿妻先生、水彩は杉本先生が講師で、中日文化クラブを開き、私たちも中日に移動しました。鬼頭先生はヨーロッパへ、阿妻先生は亡くなられ、杉本先生は忙しくなり、中日は先生が二代目になりました。私も結婚することになり中日をやめました。鬼頭先生に習った三年間に、先生の手が入った裸婦が私の宝物になっています。

その後「二期会」を立ち上げ、光風会の先生を招聘して日曜画家を続け、「ちくさ美術」に入会しました。「ちくさ美術」は県が栄町に戦後初めて美術館を造り、第一回の展示会に出品したのが始まりで、今年で 55 回展を迎えました。その間会長も三代目になりました。美術の秋(9 月)には、必ず出展の権利をとってくれることになり、珍しいことになりました。「ちくさ美術」は会員 70 名で満席です。文化センターに出展出来るのは 42 名で一杯です。会は文化センターの他に、「水彩画 6 人展」を東山公園 2 番出入口の北側「ギャラリー一甚」で年 4 回開いておりますのでお越しください。

私も 88 歳の米寿の祝いに個展を開いて最終にしたいと思っています。二年間闘った癌が今年消えて無くなりました。再発がないことを仏壇に祈っております。来年 9 月に文化センター 8 階に出品しますのでご高覧下さい。



荒川さんの作品「合掌造りの家」

ボランティア

ボランティア活動アンケートについて

昭和鯉城会ボランティア委員会

ボランティア活動アンケートにご協力頂き有難うございました。
多くの方々が、区内や市内のいろいろな施設・団体でご活躍のことが分り、大変嬉しく思います。

中には遠慮されてアンケートに記入されなかった方もありますが、集計結果を以下のようにまとめましたのでご覧下さい。ご自分の趣味や特技を活かしながら、少しでも長生きしつつ明るく過ごせるようにしませんか？

興味のある方は、その活動説明会に是非お出かけ下さい。役員会で検討し、その日時・場所をお知らせします。

ボランティア活動アンケート集計結果

1	回答数	165人 (アンケート配布205人)		回答率80.5%
2	ボランティア活動の有無	有り：79人・無し：76人		
3	ボランティア活動希望 (分類別)	(複数回答122人)		
	A-1 ライトハウスでの陶芸指導			1人
	A-2 クリーンパートナーへの参加			20人
	A-3 焼き物寄贈・土鈴作り・絵付け			7人
	A-4 土鈴の絵付け			4人
	A-5 花壇作り (歩道を花で彩る活動)			10人
	A-6 庭木の剪定・花植え			6人
	A-7 年末のタオル・雑巾を施設へ寄付			48人
	B-7 施設慰問			8人
	B-イ パソコン共同学習会			3人
	B-ウ まちの美化運動			8人
	B-エ 学区の子供たちの健全育成活動			7人
4	現在行われているボランティア活動 (内容別、複数回答 83人)			
	1. 公園、花壇の管理	17人	13.施設慰問関連	(32人)
	2. 自然環境調査	3人	a. コーラス	5人
	3. 陶芸指導	4人	b. 銭太鼓	5人
	4. 絵手紙指導	2人	c. 民謡	5人
	5. スポーツ指導	3人	d. 手話ダンス	2人
	6. ガイドボランティア	5人	e. 手話コーラス	4人
	7. 書道指導	2人	f. 折り紙	2人
	8. 手芸指導	1人	g. マジック	2人
	9. 囲碁指導	1人	h. オカリナ	1人
	10. トワイライト	2人	i. ハーモニカ	1人
	11. いきいきサロン	1人	j. フラダンス	1人
	12. 老人会、町内会役員	10人	k. 傾聴、施設手伝い	4人

* 多くの方々が多種多様なボランティアを実践されていることが、このアンケートから窺い知ることが出来ます。卒業後趣味を同じくしている方々とともに、その技能を活かした形で実践されています。

* 来年度入会してくる卒業生には、地域でのボランティアが要望されています。したがって本年度内に昭和区内の会員のボランティア活動の組織化を図ることが急務です。現在の役員だけで決定するわけにもいかないことをご理解下さい。

* 今後の方向性を見極めるために、各期ごとの話し合いの場や、学区ごとの話し合いの場を積極的に行って頂きたいものです。特に地域での他の諸団体の方との連携を基に、防災・治安・老化防止を図るためにも必要ではないでしょうか。また、各施設での慰問活動は、自分も楽しみながら、楽しみをお裾分けしてあげることに意義があるのではないのでしょうか。

活動レポート

昭和区御器所台地の散策

11月20日、地下鉄荒畑駅3番出口に鯉城会会員21名が集合。織田信長の家臣佐久間一族の拠点となった地域を散策した。

尾陽神社の北東側にある御器所城の土塁跡で、昭和区のボランティアガイドの方から説明を受けた。戦国時代には石組みの堀は無く、西側の石垣は明治以後のものと言き吃驚した。さらに御器所八幡宮は、室町時代に創建され、神仏合祀が行われた室町から鎌倉時代の作風である仏像六体が所蔵されている。天神社・八幡社・稲荷社が祀られており、必勝の神・合格祈願の神社として知られている。





昭和鯨城リズム体操クラブ 近況報告

代表 14 期 (園芸) 近藤 勇雄

今年もはや 12 月になり、猛暑、参議院選挙、米国の金融不安等々何かと落ち着かない一年だったと思います。体操クラブもいろいろと取り組みの多い年であったように思いますが、お陰様でクラブの練習日程、会場確保も会員各位のご協力もあって月 4 回を守ることが出来、財政的にも安定的に運営して来られたことを会員各位・関係各位に感謝する次第であります。

さて近況報告ですが、第一は 11 月 7 日 (水) に、年 1 回恒例にしています親睦会を市内木曾路瓦町店で行いました。出席者 100 名、西川、大塚両先生も出席して頂き、盛会裡に会席料理を楽しみました。第二は平成 20 年 2 月 24 日愛知県体育館で行われる日本体育協会主催の体育発表会に 3 年ぶりに出場することを決めたことです。先回は会長賞を頂き大変喜びましたが今回は無理とっております。今回は千種「はなみずきクラブ」と昭和クラブの共同出場、総数 120 名のうち昭和 60 名のチームになるかと思っております。今回は西川先生の創作された風呂敷を使った体操で、これから仕上げの練習に入りますが、男性は体が硬いので動きについてゆくのに一苦勞です。第三は会場確保の問題です。平成 20 年上期 (4 月～9 月) の申し込みが 1 月 4 日から始まります。当クラブは月 4 回練習することを最大の目標としており、今回も全力で会場確保に努力いたします。以上、第二、第三の仕事はかなり事務量のかかる仕事で、しかも時期が重なるため事務局も大変ですが、会員各位の期待に添うべく頑張ってお返しと期待しております。

最後にこの一年間に高齢・病気等のためクラブを退会された方が 10 名おられます。今年 20 期の入会者は 4 名です。この際 20 期に限らず昭和鯨城会に入会しておられる方で、リズム体操クラブに入会希望の方があれば受け入れることが出来ますのでご連絡ください。

頭の体操 虫食い算と覆面算

$$\begin{array}{r}
 \square \square \square \\
 \times \quad \quad 3 \square \\
 \hline
 1 \ 5 \ 1 \ 9 \\
 \square \square \square \\
 \hline
 \square \square \square \square
 \end{array}$$

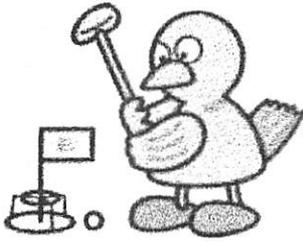
$$\begin{array}{r}
 \text{FORTY} \\
 \text{TEN} \\
 + \text{TEN} \\
 \hline
 \text{SIXTY}
 \end{array}$$

$$\begin{array}{r}
 \text{はくちようは} \\
 - \text{みずうみに} \\
 \hline
 \text{よくにあう}
 \end{array}$$

お詫びと訂正:「昭和こじょう会便り」49 号に誤りがありました。訂正させていただきます。

6 ページ右下写真説明 (誤) 秋葉神社 —— (正) 氷上姉子神社

7 ページ 8 行目 (誤) 250 —— (正) 50



グラウンドゴルフクラブニュース

名東鯨友会×昭和鯨城会

グラウンドゴルフ 親睦競技大会

19期 (地域) 磯村 良治

11月6日(火)、恒例の名東鯨友会との親睦グラウンドゴルフ大会を、今年は昭和鯨城会の主催で名古屋高速吹上ミニスポーツ広場での開催を予定しましたが、予期せぬ地球温暖化と申しましょうか、11月になっても台風21、22号の発生等で前日から降雨となり、開催日を11月13日(火)に変更を余儀なくされました。幸い当日は晴天の絶好のコンディションの下、30名(名東13名、昭和17名)が集まり、各人が日頃の練習の成果を発揮されました。

競技終了後イオン若宮大通り店・麻布茶房にて、成績発表と賞品の授与のあと和気あいの親睦会を行いました。

上位入賞者とスコアー

()ホールインワン数

順位	氏名	スコアー	順位	氏名	スコアー
優勝	佐治 正夫 (昭)	34(2)	6位	渡辺 忠 (昭)	42(1)
2位	砂川 亮 (東)	36(2)	7位	高瀬 みちよ (昭)	43
3位	大鹿 文義 (昭)	40(1)	8位	杉野 博 (東)	43(1)
4位	小塚 浩 (昭)	40(1)	9位	永田 祐千 (昭)	43
5位	山本 きぬ子 (昭)	42	10位	高柳 稔 (東)	44

・昭和鯨城会員の参加者 17名 (順不同、敬称略)

光崎 俊男、大鹿 文義、近藤 清次、田中 龍夫、春日井 正幸、渡辺 忠
吉村 卓次、佐治 正夫、永田 祐千、磯村 良治、松尾 純造、荒川 巖
小塚 浩、田中 美代子、高瀬 みちよ、山本 きぬ子、大沢 花子

お知らせ

20年1月～3月の開催日予定 (註:1月は休みです)

	第1(火)	第2(火)	第3(火)	第4(火)
	競技日	練習日	競技日	練習日
1月度	休み	休み	休み	休み
2月度	5日	12日	19日	26日
3月度	4日	11日	18日	25日

※ プレー開始 : 10時から、2プレー(約1時間)

※ 休 日 : 1月、8月と雨天の場合は休みです

※ 場 所 : 名古屋高速下 吹上ミニスポーツ広場

※ 昭和鯨城会グラウンドゴルフで、明るく笑顔で仲間と一緒にプレーしませんか

※ 用具は揃っていますので手軽に健康のためご参加ください

昭和鯉城会 第5回 趣味の作品展

平成 19 年 10 月 30 日～11 月 1 日
昭和区役所 6 階第 4 会議室



出展目録-1

部門	出展者	期・学科	作品名・題	学区
絵画	中田 雅子	7・生活	バラ	川原②
	祖父江 重孝	10・文化	少年拳士	白金②
	林 功三	11・美術	模写(ルーベンス)	松栄③
	高木 睦	14・生活	十一面観音	鶴舞②
	谷口 千鶴子	14・文化 B	幻想	八事①
	岡田 和雄	15・文化 B	林間の初日の出 本堂前より拝む (八事興正寺)	八事①
	加藤 初雄	15・地域	熊野古道	滝川①
	荒川 巖	16・文化	合掌造りの家	川原④
	水野 治	17・美術	京都の落柿舎	広路②
	後藤 昇三	18・美術	名大のくすの木並木	伊勝②
	杉本 仁	18・美術	ひまわり	吹上①
	奥村 勇夫	20・美術	白川の風景	白金②
書	春日井 正幸	6・文化	生者必滅 会者定離	広路①
	栗田 龍彦	9・園芸	五言句 自琢	川原①
	水野 美子	14・文化	賀壽之俚謡	滝川③
	市村 とよ子	15・生活	道	広路④
	佐治 正夫	16・文化	関戸古今集より 「むかしあいしりて」	広路⑤
	後藤 昇三	18・美術	瓶にさす藤の花 老軀を以って書に挑む	伊勝②
短歌・俳句	柴田 鈴子	16・文化 B	芽ぶき 明治の芝居小屋	白金①
	石橋 政雄	17・環境	短歌 俳句	広路⑤
	栗谷 任	17・園芸	短歌 俳句	川原①
つなぎ 折鶴	大野 敏博	18・国際	(連鶴同好会)	川原④
	遠藤 久子	18・生活 B		御器所①
	佐々木 久子	18・文化 B		御器所②
	酒井 昭彦	19・福祉		御器所①
	八神 邦子	19・文化 A		松栄④
木版画	佐藤 重二	18・文化 A	円空両面宿雛像	川原④
切り絵	広江 昭二	5・陶芸	文楽人形	伊勝②
タペストリー	高瀬 みちよ	13・生活	想ふまま	広路①
パソコンアート	伊藤 敬子	19・福祉	ビンの中の街 (合成写真)	白金①
			花と猫 (合成写真)	

出展目録-2

部門	出展者	期・学科	作品名・題	学区
陶芸	広江 昭二	5・陶芸	皿	伊勝②
	大沢 花子	13・陶芸	花器	広路⑤
	林 喜久代	13・健康	香炉 (つばき)	松栄③
			香炉 (ぶどう)	
	山口 護	13・陶芸	花器	御器所①
			花器	
	荒川 巖	16・文化	花瓶	川原④
	小川 幾敏	17・陶芸	花器	広路⑤
			茶碗	
	白井 基久	17・陶芸	花器	鶴舞①
桜井 建郎	18・陶芸	壺	八事①	
		茶碗 (晩秋)		
篠田 敦子	18・生活 A	かびん	川原②	
		あかり		
市之瀬 克代	20・陶芸	茶碗 (天目)	伊勝②	
写真	近藤 勇雄	14・園芸	ULURU に挑む	広路④
	稲田 昌也	17・環境	初夏 (梓川)	御器所①
			千畳敷カール	
	片山 咲枝	17・福祉	夜明けの富士	広路①
	市之瀬 威	18・環境	初秋 (海津・津屋川)	伊勝②
			盛秋 (京都・光明寺)	
	小林 久江	18・健康	シルクロードの旅(花舞い)	広路④
			シルクロードの旅(你好)	
	古澤 良蔵	19・地域	のれん	松栄①
	余語 司郎	19・福祉	孔子廟用水	八事②
孔子廟門				
市之瀬 克代	20・陶芸	威嚇 (東山公園)	伊勝②	
大舘 貞壽	20・生活	黄山黎明	川原④	
村上 洋三	20・生活 A	金鯪到着	御器所②	
粘土額	山本 郁子	15・文化 A	秋の一日	川原②
拓本	神田 史郎	17・文化 B	万葉集 大津の皇子のみうた	広路③
日本刺繍	中林 ハル子	19・園芸	王義之	川原④
アートフラワー	森 セツ子	20・福祉	壁掛 (水辺)	広路⑤
色紙	原田 田鶴子	17・生活	からす瓜 ぶどう	白金②
刺繍			ベンチ	



作品展風景



八事学区話題

17期 (国際) 辻 慶明

昭和鯨城会に八事学区内会員が 20 名いるが、お互いに街であっても顔も判らないという声を聞いていました。

幸い八事学区の中に 19 期の余語司郎さんと、20 期の長谷川勝美さんが役員で積極的に活動されているので、連絡員ルートで学区内会員に呼びかけて顔合わせをしようということになり、喫茶店コメダを拠点に集まることにした。

初回は 7 月 9 日 (月曜日) 10 時に集まり、そこで毎月第 2 月曜日の 10 時に集まることに決めたと、毎回 7 名から 13 名が参加している。

話題は各人の近況、病気、政治、環境、自慢、趣味等のよもやま話の花を咲かせながら昭和鯨城会の行事案内の参加も呼びかけている。

この集まりの中で何かボランティアをやろうという話がまとまり、誰でも出来て地域で喜ばれることということで、先輩の 5 期の武内銀蔵さん (老人会会長を長年やっている) が昭和土木と掛け合ってください、秋中から南山礼拝堂經由壇溪橋まで清掃を行うことが決定した。

第 1 回清掃活動の連絡をしたところ、11 月 5 日 (月曜日) 10 時から 12 名 (男性 8 名、女性 4 名) が参加してください、第 1 回目の清掃活動を行う事が出来ました。全員軍手をはめ、ゴミ袋とゴミハサミを持ち、和気あいあいと楽しく元気に良い汗をかきました。分別処理も皆で行い、当面用具やゴミの回収日までの保管を、保健委員をやられている 18 期中岡正道さん宅にお願いすることになりました。

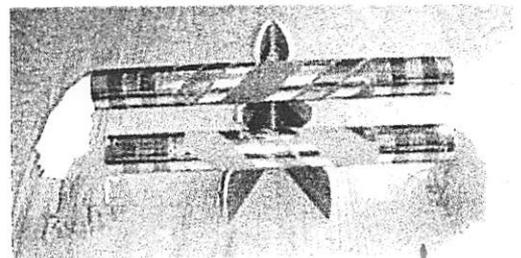
このボランティアをきっかけに、地域で私共に出来るボランティアを皆で検討し、少しでも地域貢献が出来れば幸いと思っています。そして全員が元気で毎月顔を合わせ、楽しみながら頑張っていこうと思っています。

お知らせ 2

- 市内銭太鼓合同発表会 昭和鯨城会協賛
- 平成 20 年 1 月 19 日 (土) 正午から
- 昭和区役所 2 階講堂



各区からの同好会競演です。
この機会に銭太鼓同好以外の
の皆さんも集まって交流の
輪を一層広げましょう！
お気軽にご来場下さい。



このごろ

十一期 (園芸) 後藤 林蔵

肉親の殺傷事件おおくなり

人の繋がりここまで来しか

ふくらはぎ程よく太き娘らに

希望をもてり国のゆくすゑ

両の手に重き荷の夫の後ろから

携帯見入る夫婦の歩み

寒いねえ 物は豊かになつたのに

昔の方が暖かかつた

会食にことさら明るくもてなすを

いかに見るらむ妻一周忌

奥琵琶湖周遊

十七期 (環境) 石橋 政雄

大崎寺

冷まじ^{すさ}や血の天井に千社札

大崎海津

散り初めし桜もみじの奥琵琶湖

大浦

丸子舟飾る湖北や鴨わたる

菅浦

萱葺きに秋雨浸みる四足門

全長寺

秋の燈や紅うつすらと古能面

全長寺

底冷えの堂に老師の声高き

全長寺

八方を睨む達磨や初火鉢

全長寺

利勝の陣取りし山北風受けて

全長寺

冬めくや馬頭観音眉上げて

全長寺

寒風に晒され羽衣掛けの柳

ごろも

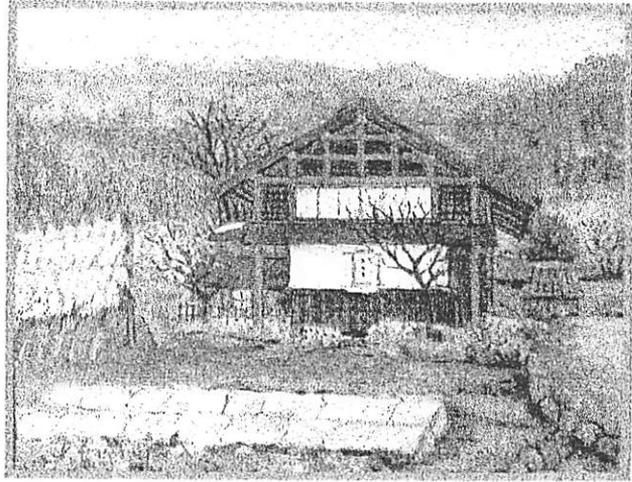
羽衣掛の柳

平成十九年十一月二十三日

ニュース

荒川 巖さん 昭和区区民美術展で「名古屋市教育委員会長賞」受賞
洋画の部 油絵 30号「農家」(木曾駒山麓にて)

「この作品は、県芸術文化センターで毎年開催される「ちくさ美術」に展示する目的で、18年秋のスケッチを基に完成した30号の作品です。山村の歴史ある風情を残した建物と山麓の風景とのバランスや、私たちの忘れ去った田舎の文化・生活感を感じ、絵筆を走らせました。」(荒川さん談)



編集後記

早いもので今年も、師走になってしまいました。政局の不安定から11月にインド洋の海上自衛隊による艦船への給油活動が中止になったり、原油価格の高騰など難しい世の中になっています。この中、昭和鯨城会では皆様のご協力を得てボランティア活動アンケートの集約が出来、会員が種々の分野でそれぞれの持ち味を活かして活躍されている様子が窺えました。また昭和区区民まつり・趣味の作品展等でのご協力を感謝しております。皆様の投稿をお願いし、この号から先輩の指導のもと、新人中心に悪戦苦闘しながら編集作業をしています。皆様のご協力をお願いします。

昭和鯨城会会報「昭和こじょう会便り」50号

発行責任者 :	渡辺 信良		
編集委員 :	市川 賢	八神 邦子	
	中林 ハル子	伊藤 敬子	
	富田 紘八郎	村上 洋三	
	森 セツ子	渡辺 晴朗	

